

一般目標（GIO）

脊椎脊髄疾患の理解に必要な病態生理学を修得する。
脊椎脊髄疾患の正確な診断を行うための基本手技を修得する。
脊椎脊髄疾患の治療を安全に行うための基本的手技を理解する。
重要な脊椎脊髄疾患について理解・修得する。

具体的目標（行動目標 SBOs）

体幹・四肢の解剖を修得する。
脊椎・脊髄・神経・筋腱の正常組織像と各種疾患での病理組織像を述べることができる。
神経の変性と再生について述べることができる。

脊椎の身体所見がとれ、評価できる。
神経学的所見がとれ、評価できる。（徒手筋力テスト、感覚障害の検査、反射）
適切な X 線写真の撮影部位と方向を指示し、読影できる。

CT の適応を理解し、読影できる。

MRI の適応を理解し、読影できる。

電気生理学検査（筋電図、神経電動速度）の適応を理解し、判定できる。

理学療法・運動療法・作業療法の基本と適応を述べることができる。

装具療法の基本と適応を述べることができる。

硬膜外ブロックを安全に行う方法を述べることができる。

局所解剖に基づいて手術の概要を述べることができる。

手術の必要性、侵襲度、合併症について述べることができる。

下記の疾患の臨床像を述べて鑑別診断ができ、検査・治療方針を立てることができる。

脊椎の先天異常

頰椎椎間板ヘルニア

腰椎椎間板ヘルニア

頰部脊髄症

後縦靭帯骨化症

脊柱側弯症

腰部脊柱管狭窄症

化膿性脊椎炎

脊椎・脊髄腫瘍

方略 (LS)

1. カンファレンス

毎日、病棟カンファレンスで指導医から画像読影講義があり、読影の基本を身につける。
週1回の術前カンファレンスで受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、また治療方針の決定に関わる。

週1回のリハビリカンファレンスで受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、リハビリテーションの基本と適応を身につける。

2. 病棟・外来業務

指導医・上級医の指導のもとに、検査、診療に携わることで、脊椎脊髄疾患について理解・修得し、正確な診断や治療を安全に行うための基本的手技を理解・修得する。

3. 手術治療

指導医・上級医の指導のもとに、手術治療に携わることで、脊椎脊髄の局所解剖や手術の概要について理解する。また手術の必要性、侵襲度、起こり得る合併症について理解する。

評価 (EV)

1. 自己評価

EPOC および症例レポート、自己評価表を用いて自己評価を行う。

2. 指導医による評価

EPOC および症例レポートを用いて評価を行う。

3. コメディカルによる評価 (看護師)

EPOC および評価表をもちいて評価する。

4. 研修医による評価

EPOC および評価表をもちいて診療科全体 (指導内容、研修環境)、プログラム内容を評価する。